

第100期 中間株主通信

平成24年1月1日から平成24年6月30日まで



東亜合成株式会社 証券コード 4045

- 01 株主の皆様へ
- 03 セグメント別概況
- 05 特集：東亜合成グループの
最終製品
- 09 トピックス

裏表紙のアンケートにご協力ください！ 抽選でアロンアルファ®とはがし隊をプレゼント!!



グループの英知と連携を深化させ、
さらなる変革を推進し、
強い事業構造を持った企業体質への転換に
取り組んでまいります。

代表取締役社長 橋本 太

Q.

当第2四半期連結累計期間の概況についてお聞かせください。

A. 当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、復興需要が内需を力強く牽引するまでには至らず、欧州債務危機の深刻化とそれに続く新興国の成長率鈍化、米国における雇用の伸び悩みなど、世界経済の減速が国内経済を下押しするリスクが懸念される中で推移しました。

当社グループを取り巻く事業環境におきましても、半導体などの電子材料分野に一部回復の兆しがみられるものの、各セグメントとも総じて需要の回復は弱く、特にアジア市場において需給バランスが崩れたことにより製品価格、販売数量が下落するなど、収益が圧迫される状況が続きました。

このような中、当社グループは、苛性ソーダをはじめとする基礎化学品を中心に製品価格の是正に取り組むとともに、機能性接着剤などの高付加価値製品の拡販に努めました。また、前期に当社と販売・開発部門を統合した鶴見曹達株式会社をはじめ、グループ会社間の連携を強め、徹底したコスト削減に取り組むなど収益の確保に努めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は728億5千2百万円(前年同期比7.2%減収)、営業利益は68億6千7百万円(前年同期比33.6%減益)、経常利益は70億4千8百万円(前年同期比32.9%減益)、当期純利益は48億9千9百万円(前年同期比16.0%減益)となりました。

ポイント

- 総じて需要の回復は弱く、前年同期比で減収減益に
- 引き続き高付加価値製品の拡販等を通じて、通期での収益確保に努める
- 当期の中間配当金は5円を実施、年間配当金は前期と同額の10円を計画

Q.

通期の見通しについて
お聞かせください。

A. アジア市場の減速を受けて、国内経済の需要は全般的に弱く、当社グループを取り巻く事業環境は厳しい状況が続くことが予想されます。このような中、当社グループは市場環境に対応した製品価格の是正や、グループ間の連携を深めたコスト削減に取り組むとともに、高付加価値製品の拡販を通じて収益の確保に努めてまいります。

通期の業績につきましては、売上高は1,500億円(前期比2.0%減収)、営業利益は150億円(前期比13.5%減益)、経常利益は153億円(前期比12.9%減益)、当期純利益は100億円(前期比23.1%減益)を予想しております。

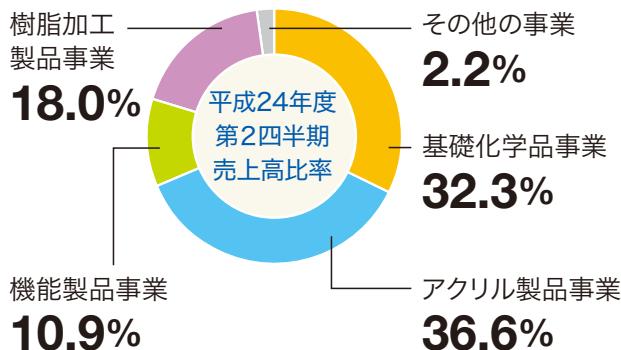
Q.

株主の皆様へメッセージを
お願いします。

A. 2011年から2013年までの3年間を実行期間とする中期経営計画“ALL TOA 2013”は、ターニングポイントとなる2年目に入っております。東亜合成グループのさらなる成長・飛躍に向けて、“ALL TOA 2013”に掲げるアクションプランを引き続きスピード感を持って実行し、いかなる経済環境下でも安定して利益を創出できる強い事業構造を持った企業体質への転換に取り組んでまいります。

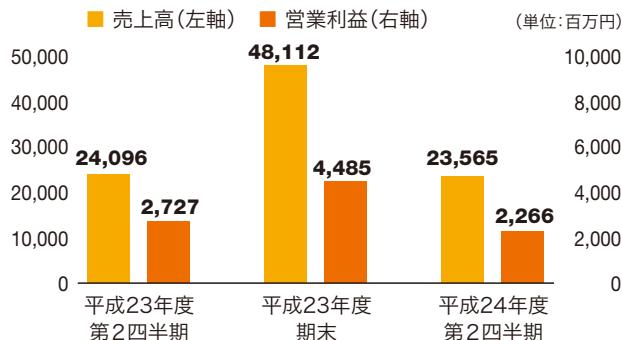
株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き変わらぬご支援、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

セグメント別売上高比率



基礎化学品事業

苛性ソーダおよび無機塩化物は、製品価格を是正した効果が期後半から徐々に現れ始めているものの、一般的に需要の回復は弱く低調に推移しました。無機高純度品は、外需を中心とした半導体向け需要に若干の回復の兆しが見られるものの、本格的な需要回復には至らず低調に推移しました。硫酸は、需要は弱含んだものの、前期に製品価格を是正した効果があり堅調に推移しました。



セグメント別売上高・営業利益

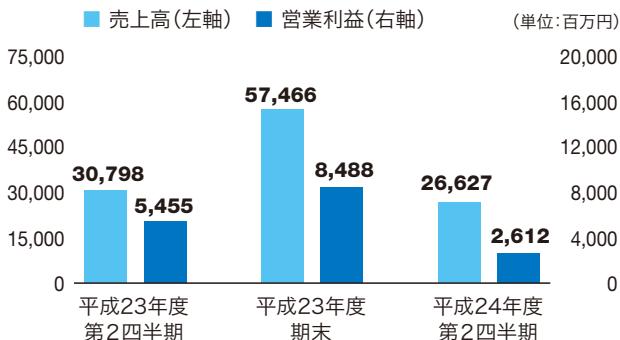
(平成24年度第2四半期)

(百万円)

	売上高	営業利益
基礎化学品事業	23,565	2,266
アクリル製品事業	26,627	2,612
機能製品事業	7,977	1,429
樹脂加工製品事業	13,098	503
その他の事業	1,583	△7

アクリル製品事業

アクリル酸エステルは、国内外ともに販売数量、販売価格が低迷し、低調に推移しました。アクリル系ポリマーは、一般的に底堅い需要に支えられ堅調に推移しました。高分子凝集剤は、官需を中心に販売価格が低迷し低調に推移しました。光硬化型樹脂「アロニックス」は、液晶分野向けを中心に販売数量が減少し低調に推移しました。



セグメント別主要製品

● 基礎化学品事業

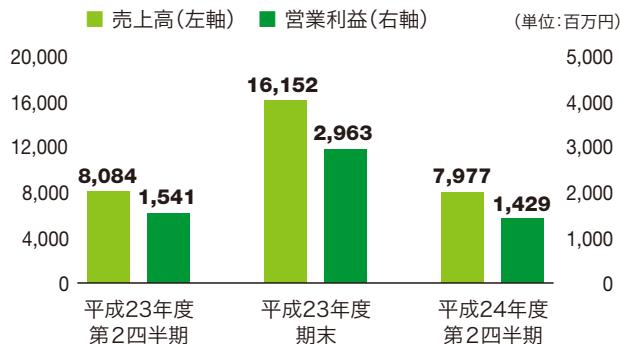
苛性ソーダ、苛性カリ、液体塩素・塩酸などの無機塩化物、無機高純度品、硫酸、工業用ガス等

● アクリル製品事業

アクリル酸、アクリル酸エステル、アクリル系ポリマー、高分子凝集剤、光硬化型樹脂等

機能製品事業

接着剤は、一般用の需要が底堅く推移するとともに、工業用も携帯端末向けを中心とした需要に支えられ堅調に推移しました。建築・土木製品は、土木製品の販売数量が減少し低調に推移しました。無機機能材料は、消臭剤、防カビ剤の需要が堅調だったものの、抗菌剤、無機イオン交換体の需要が落ち込み低調に推移しました。エレクトロニクス材料は、シリコン系高純度ガスの販売価格が低迷し低調に推移しました。



● 機能製品事業

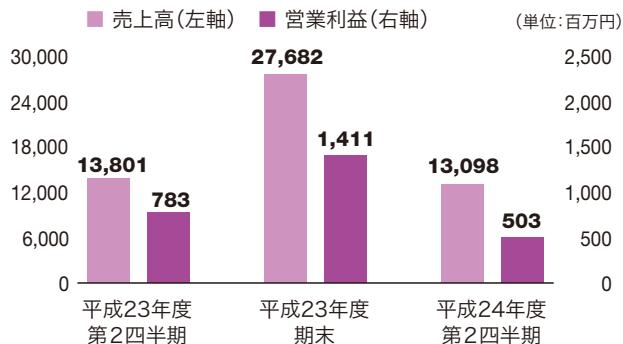
接着剤、建築・土木製品、無機機能材料、エレクトロニクス材料等

● 樹脂加工製品事業

管工機材製品、ライフサポート製品、エラストマーコンパウンド

樹脂加工製品事業

管工機材製品は、全般的に需要の回復が遅く低調に推移しました。ライフサポート製品は、介護関連製品の需要が底堅く推移したものの、日用雑貨品の販売数量が減少し前年同期並みで推移しました。エラストマーコンパウンドは販売数量が落ち込み低調に推移しました。



アロンアルファ®だけじゃない 豊かで安心な暮らしを支える最終製品の数々

建物の長寿命化を実現する建材製品

屋根と外壁の大規模修繕は 「アロン建材シリーズ」

マンションなど建物の外壁を雨水の侵入から守り、建物の長寿命化に貢献する外壁化粧防水材「アロンウオール®」。東亜合成グループが得意とするアクリルゴムの塗膜技術をベースに改良を重ね、上市以来35年以上の実績を誇ります。最大の特徴は、アクリルゴムの特性を生かしたひび割れ追従性能。コンクリートにとって避けることのできないひび割れに追従し、破断しない柔軟な塗膜を可能にします。その他にも、屋根用塗膜防水材「アロンコート®SQ」、透明な塗膜でタイル外壁の風合いを生かす「クリアウオール®」など、マンションの大規模修繕に備えて幅広くラインアップしています。

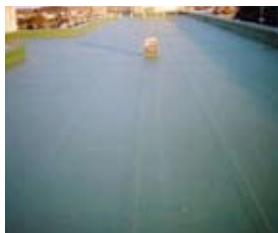
屋根もタイル張り外壁も一般塗装仕上外壁も、すべて耐久性の優れた同質の塗膜防水材で雨合羽(あまがっぱ)のように包み込んでしまう「トータルメンテナンス」というコンセプト。それが「アロン建材シリーズ」が提唱する新しい大規模修繕の考え方です。



クリアウオール®施工例



アロンウオール®施工例「沖縄・万国津梁館」



屋根用塗膜防水材
「アロンコート®SQ」施工例



安定した伸び性能を示す
クリアウオール®

お年寄りの自立とご家族の思いやりのために。

介護用品ブランド「安寿」

「安寿」は、東亜合成グループのアロン化成(株)が製造・販売する介護用品の商標です。「安心」して「長生き」をしてほしい、介護にかかわるすべての人にとって使いやすい商品でありたいという願いを込めて開発したポータブルトイレ、入浴用イスなどの製品は、介護を受ける方はもちろん、ケアマネージャーをはじめ介護に携わる多くの方々に支持され、介護分野をリードするブランドに成長しました。

樹脂加工の分野で培った組み立て・加工技術を生かし、高齢化が進む社会のニーズにきめ細かく応えながら、介護の分野で新しい事業領域を開拓していきます。



「安寿」シリーズのポータブルトイレ

Toagosei America「Krazy Glue®」



瞬間接着剤のロングセラー「アロンアルファ®」は、米国では「Krazy Glue®」というブランド名で販売されています。「驚き」という意味合いのある「Crazy」の頭文字である「C」を「K」に変えた特徴的なネーミングや印象的なテレビCMなどにより、日本と同様、米国でもロングセラー商品として広く認知されています。



世界中で愛用されているKrazy Glue®

<http://www.krazyglue.com/>

連結財務諸表(要旨)

貸借対照表

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結会計期末 (平成24年6月30日)	前連結会計年度末 (平成23年12月31日)	増減額
① 流動資産	90,386	87,757	2,629
固定資産	84,486	83,288	1,198
資産合計	174,872	171,046	3,826
流動負債	32,883	29,179	3,704
固定負債	10,780	14,090	△ 3,310
負債合計	43,664	43,269	395
純資産	131,207	127,776	3,431
負債純資産合計	174,872	171,046	3,826

損益計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	増減額
売上高	72,852	78,474	△ 5,622
売上総利益	19,597	24,568	△ 4,971
販売費及び一般管理費	12,730	14,228	△ 1,498
② 営業利益	6,867	10,340	△ 3,473
経常利益	7,048	10,510	△ 3,462
特別損益	593	△ 1,020	1,613
四半期純利益	4,899	5,835	△ 936

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)
③ 営業活動によるキャッシュ・フロー	15,159	13,064
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,686	△ 4,923
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,998	△ 6,196
現金及び現金同等物の四半期末残高	30,584	24,548

POINT ①

資産合計は、「受取手形及び売掛金」が減少したものの、「有価証券」や有形固定資産などの増加により、前連結会計年度末に比べ38億2千6百万円、2.2%増加し、1,748億7千2百万円となりました。

POINT ②

各セグメントとも総じて需要の回復は弱く、製品価格、販売数量が下落するなど、収益が圧迫される状況が続いた結果、営業利益は前年同期に比べ34億7千3百万円減少し、68億6千7百万円となりました。

POINT ③

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が増加したため、前年同期に比べ支出が17億6千2百万円増加し、66億8千6百万円の支出となりました。

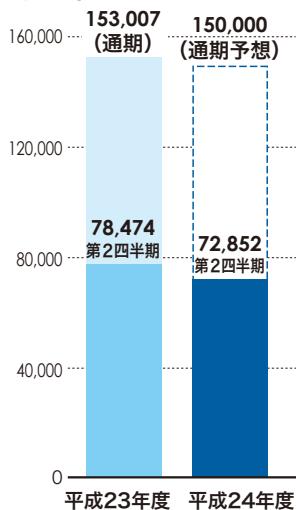
▶ 配当について

当期の業績、今後の事業展開、業績の進展等を総合的に勘案し、当第2四半期末の配当金は1株当たり5円といたします。年間では10円の配当を予定しております。

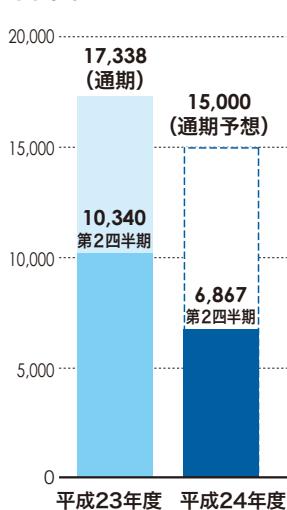
平成24年度第2四半期

(単位:百万円)

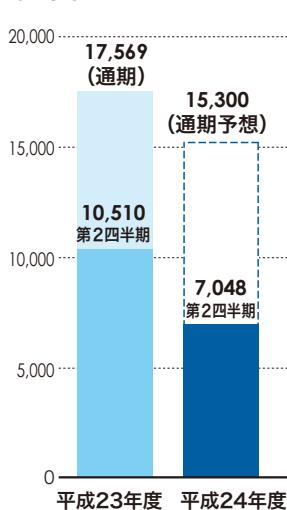
売上高



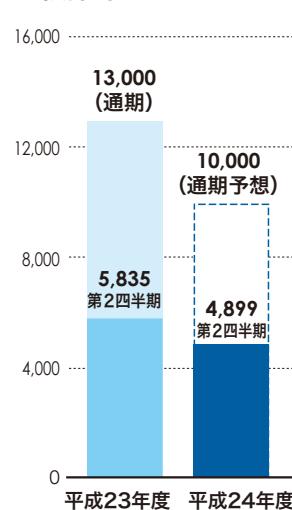
営業利益



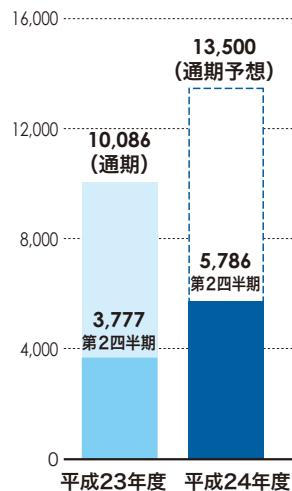
経常利益



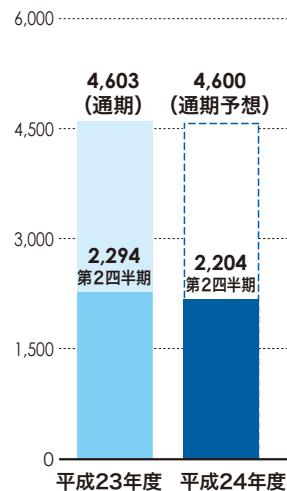
当期純利益



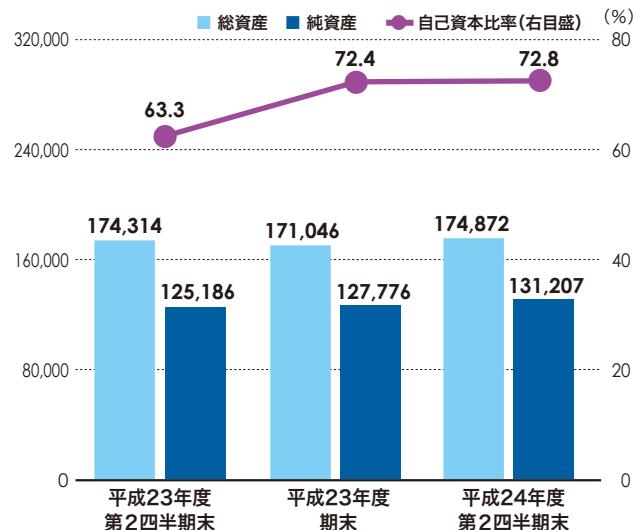
設備投資額



研究開発費

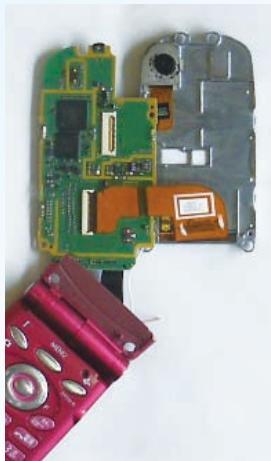


総資産・純資産・自己資本比率



易溶性酸化銅の製造設備増強

易溶性酸化銅は、パソコンや携帯電話など、私たちの身の回りにある電子機器に幅広く使われる電子回路基板の銅メッキに使用されます。近年、電子機器の小型化、軽量化により電子回路基板のさらなる高密度化が進む中、バラつきのない均一な高品位メッキを可能にする易溶性酸化銅の需要が高まっており、このたび、子会社の鶴見曹達(株)で易溶性酸化銅の製造設備を増強しました。



易溶性酸化銅と硫酸銅メッキ液

<用途>
携帯電話などの電子回路基板に使用されています。

「アロンパイプ」化学遺産に認定

戦後間もない昭和26年に日本で初めて製造に成功したアロン化成(株)の硬質塩化ビニルパイプ(製品名:アロンパイプ)が、平成24年3月に化学遺産に認定されました。化学遺産とは公益社団法人日本化学会が化学と化学技術に関する歴史資料の中でも特に貴重なものを次世代に伝え、化学に関する学術と教育の向上、化学工業の発展に資することを目的に認定するものです。日本の高度経済成長期に上水道管、農地かんがい用水の管路など幅広い用途で使用され、人々の暮らしを支えたアロンパイプは、これからも給排水分野で社会に貢献し続けます。



昭和26年
日本初の硬質塩化ビニルパイプを手に



硬質塩化ビニルパイプのサンプル(現存)

会社概要

本店所在地／〒105-8419 東京都港区西新橋一丁目14番1号

電話 (03)3597-7215(代表)

設立／昭和17年3月31日

資本金／20,886百万円

従業員／連結2,554名

単独 934名

取締役および監査役

代表取締役会長	山寺	炳彦
代表取締役社長	橋本	太
取締役	有澤	章夫
取締役	山田	勝敏
取締役	野村	聡一
取締役	小関	健
取締役	高村	美己志
取締役	中川	和明
取締役(社外)	滝澤	英一
監査役(常勤)	佐藤	邦雄
監査役(社外)	佐藤	勝
監査役(社外)	三浦	良二
監査役(社外)	原	一夫

株式の状況

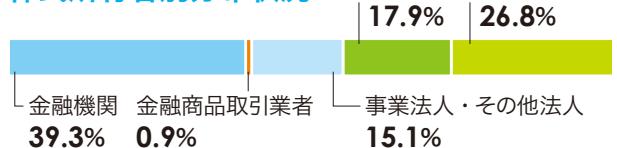
発行可能株式総数	550,000,000株
発行済株式総数	263,992,598株
株主数	24,255名

大株主の状況

株主名	株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	14,158	5.37
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	12,802	4.86
株式会社三井住友銀行	11,636	4.41
東亜合成取引先持株会	7,283	2.76
東亜合成グループ社員持株会	6,176	2.34
株式会社三菱東京UFJ銀行	5,648	2.14
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	4,990	1.89
ザバンク オブ ニューヨーク トリーティー ジヤスアック アカUNT	4,950	1.88
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	4,305	1.63
農林中央金庫	3,944	1.50

出資比率は、自己株式(340,728株)を控除して計算しております。

株式所有者別分布状況



※「個人・その他」には自己株式が含まれております。

東亜合成グループの主な関係会社

セグメント別	主な関係会社
基礎化学品事業	鶴見曹達(株)、東亜テクノガス(株)、東亜合成KOREA(株)
アクリル製品事業	大分ケミカル(株)、日本純薬(株)、トウアゴウセイ・シンガポール・ピーティーイー・リミテッド、台湾東亜合成股份有限公司、東昌化学股份有限公司、張家港東亜迪愛生化学有限公司、MTアクアポリマー(株)
機能製品事業	トウアゴウセイ・アメリカ・インク、東亜合成香港有限公司、東亜合成(珠海)有限公司、アロンエバーグリップ・リミテッド、アロン包装(株)、エルマーズ・アンド・トウアゴウセイ・カンパニー、東亜建装(株)、MTエチレンカーボネート(株)
樹脂加工製品事業	アロン化成(株)、ミックプラスチック(株)
その他の事業	(株)TGコーポレーション、TOAエンジニアリング(株)、東亜ビジネスアソシエ(株)、東亜興業(株)、東亜物流(株)、北陸東亜物流(株)、四国東亜物流(株)

株主メモ

- 事業年度…………… 毎年1月1日から12月31日まで
- 定時株主総会…………… 毎年3月に開催
- 基準日…………… 定時株主総会・期末配当 毎年12月31日
中間配当 毎年 6月30日
- 公告の方法…………… 電子公告の方法により行います。
ただし、電子公告によることができない事故
その他のやむを得ない事由が生じたときは、
日本経済新聞(東京)に掲載します。
公告掲載URL (<http://www.toagosei.co.jp/>)
- 株主名簿管理人…………… 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 郵便物送付先…………… 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) **0120-782-031** (フリーダイヤル)
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店
および全国各支店で行っております。

ご案内

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

各種手続用紙のご請求について(特別口座の株主様)

以下の手続用紙のご請求については、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社のインターネットで24時間お受けしております。

■ホームページアドレス

<http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

- ・口座振替申請書
- ・単元未満株式買取請求書
- ・配当金振込指定書(特別口座用)
- ・変更届(住所・氏名・届出印等)

未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

「配当金計算書」について

配当金のお支払いの際に送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねており、確定申告を行う際の添付資料としてご使用いただくことができます。確定申告を行われる株主様は、大切に保管してください。

株主アンケート

アンケート実施期間 **平成24年9月30日まで**

当社では、株主の皆様への情報開示の充実に努め、当社の経営をより一層ご理解いただけるIR活動を行っていきたくと考えています。つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、下記アンケートサイトにアクセスしていただき、アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。
なお、ご回答いただきました内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的には使用いたしません。

このアンケートは、諸費用(郵便料金など)の削減と集計作業の迅速化を目的として、株式会社アイ・アール ジャパン(IR支援会社)が運営するWebアンケートシステム「株主ひろば」を利用して実施しています。



【ご回答の操作方法等のお問い合わせ先】

株式会社アイ・アール ジャパン

株主ひろば事務局 E-mail: inquiry@kabuhiro.jp

アンケートサイト(画面)への接続方法

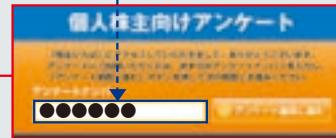
Yahoo!やGoogleなどからアンケートサイトを呼び出してください。

株主ひろば 検索 URL <http://kabuhiro.jp>

ご回答方法

アンケートサイト(www.kabuhiro.jp)画面中央の入力ボックスに、アンケートナンバーを入力して回答画面にお進みください。

アンケートナンバーにつきましては株主の皆様にお送りいたしました株主通信(冊子)をご覧ください。



抽選で**100名様に**
「アロンアルファ®EXTRA
ゼリー状」と「はがし隊」を
プレゼント

(当選は発送をもって代えさせていただきます)

